http://www.jnep.jp/

JNEP
THINKANDACT,GLOBALLYANDLOCALLY

なくせ公害　まもろう地球環境
公害・地球環境問題懇談会
No.226　2014年7月号

JNEP第1回幹事会

公害センターにて
第1回幹事会

目　　次

原発ゼロで温暖化を止めよう！
　　ＤＶＤ普及・署名運動で世論形成を……2
交渉拒否の規制庁に対し抗議申し入れ……3
３９回公害総行動総決起集会を演出して……3
天狗が見た全国公害被害者総行動……5
地元の雇用を増やした
　　中小企業の市民太陽光発電所の見学記……6
「地球の温暖化をとめて２　未来につなげ！」制作開始！！……9
JNEP情報……9
活動日誌……10

原発ゼロで温暖化を止めよう！
DVD普及・署名運動で世論形成を

公害･地球懇事務局長　清水　瀞

■ＪＮＥＰ第１回幹事会の報告

7月19日(土)9:30からスモン公害センターにおいて2014年度第1回幹事会を開催した。日本環境会議東京大会シンポジウムの参加の関係で午後の予定を午前に変更。

幹事会では、総会シンポジウムの発展として「原発ゼロと温暖化対策を両立させる世論形成」の取り組みについて討論。7月9日の温暖化対策推進委員会・政策委員会合同会議での検討を受けて討議し、2015年3月の各国の温室効果ガス削減目標提出の時期までに政府に対して積極的な温暖化対策を求める国民世論をつくる。そのために、DVD制作・普及と署名運動をセットで取り組む方針を決めた。DVDについては映演労連の協力を得てシナリオ（第一次案）の検討がすすみ、署名運動については「署名用紙」「署名運動要綱」案が政策委員会から提起され、8月末～9月初旬までにまとめる予定である。

■「世論と運動が勝負」の認識を共有

幹事会では、「原発と石炭火発をベースロード電源」とするエネルギー基本計画の閣議決定に続き、「戦争のできる国づくり」の集団的自衛権容認（解釈改憲）の閣議決定がされ、暴走を加速する安倍政権とのたたかいが焦点との情勢分析が行われた。公害環境分野では、「公害をなくし、温暖化を止め、原発に頼らない社会」をめざす運動が討議された。福島・沖縄県知事選と来春の一斉地方選挙を視野に入れ、「地方を主体」とした活動の重要性を確認した。

■会員拡大の一歩を！

最優先議題の「JNEPの主体的力量の強化」については、会員拡大の「おすすめ三点セット」（しおり・活動紹介・私も会員）を用意し、一歩を踏み出すこと、第2回幹事会(10月18日)までの共催・協賛行事の取り組みと結び取り組むことを確認。

○九州現地調査(8月23～25日)
○環境公害セミナー(9月6日)
○PM2.5シンポジウム(9月15日)
○第3回フクシマ現地調査(10月4～5日)

■第40回公害総行動にむけて

フクシマをくりかえすな！　原発再稼働は許さない！の立場でたたかう公害総行動を原発担当（小池、清水）として支える。第39回公害総行動の継続的な課題を共に取り組みつつ、節目の第40回公害総行動にむけてはPT会議メンバー（清水事務局長）として参画。①前段の全国連鎖行動の企画、②環境行政の検証・今後のあり方の検討、などに関して積極的な役割をはたす方向を確認した。

■今後の会議日程

◇常任幹事会
第3回＝8月6日(14:00～)
第4回＝9月3日(14:00～)
第5回＝10月8日(18:00～)
◇第2回幹事会 10月18日(土)13:30～16:30
スモン公害センター

第39回公害総行動の7・31継続交渉

交渉拒否の規制庁に対し抗議申入れ

川内原発の再稼働を許さない！　新たなたたかいの火ぶた切る。

公害･地球懇事務局長　清水　瀞

総行動実行委員会は、福島原発事故は史上最大最悪の公害であり、フクシマをくりかえすな！原発再稼働は許さない！を要求して第39回公害総行動に取り組んだ。
7月31日、継続交渉を拒否する原子力規制庁に対する抗議、規制庁欠席を理由に同席しない内閣府・経済産業省・環境省に対しては個別の申入れをおこなった。実行委員会の原発問題責任者・小池(JNEP)代表幹事)事務局次長・昼間、いわき・伊東団長、避難者・早川団長、かながわ・村田団長を先頭に、生業原告団・弁護団、全面賠償をさせる会、かながわ支援、東京公害患者と家族の会、JNEP(橋本、渡辺、清水)、実行委員会事務局から19名の代表が参加した。

■規制庁は「継続交渉を拒否」

川内原発の再稼働について規制庁（規制委員会）は7月16日に「適合審査書案」を公表。その直後の7月18日に7・31交渉には「応じない」と連絡をしてきた。「何をもって世界一厳しい基準というのか説明せよ」「被害者の声を聞くべきだ」「交渉に応じよ」との抗議に対して「今後も継続的な話し合いには応じられない」との拒否回答であった。

■三省庁は交渉の継続を確認

内閣府・環境省は継続的な交渉に応じる、経済産業省は文書回答することを約束した。
環境省は「オーフス条約と環境アセス制度」に関する検討については第40回公害総行動にむけて協議をすすめることに同意。
内閣府は「避難指示解除・避難者住宅問題」について被害者の立場をふまえ検討する姿勢を示した。

■7･31行動を契機に新たなたたかいへ

行動に参加した代表は「まとめ」をおこない、今後の取り組みについての意見交流のうえ次のことを確認した。
１．規制庁に対しては、①川内原発再稼働に関する「パブコメ」を8月15日までに集中する。②今後、事あるごとに機敏に申入れをくりかえしおこない、事実上交渉に応じさせる。
２．7・31行動を契機に新たなたたかいの火ぶたをきり、大きな節目の第40回公害総行動(2015年6月3～4日)にむけての構えをつくり、実行委員会(9月5日)の取り組みに結集する。
３．夏から秋の行動をしっかりと取り組む。
①ミナマタとフクシマを結ぶ取り組み
○水俣・有明現地調査(8月23～25日)
○第3回フクシマ現地調査(10月4～5日)
②泉南・建設アスベストの取り組み
○泉南最高裁弁論(9月4日)
○建設福岡判決(9月17日)
③大気汚染
○東京都医療費助成制度の存続
○新たな救済制度の実現
○基地公害・薬害などの取り組み

３９回公害総行動総決起集会を演出して

児童文学作家、企画演出家　　大門高子

福島現地調査　いわきにて
大門高子さん

総行動総決起集会に関わるようになって10数年になります。始めはぜんそく患者の苦しみを歌った「青空の詩」という合唱組曲を創り、その出演で参加しました。その後一時間を文化活動的な内容で企画演出するようになり、原告の苦しみや裁判などの寸劇の台本を書いたりもしました。毎回「これでいいのだろうか」と悩みながら集会を迎えてきましたが、例年「これまでで一番よかった」と褒めて頂くことも多くほっとしてきたものです。

私は、闘いに直接かかわることがなかなかできませんので、闘いを肌で感じようと思ってなるべく原告の皆さんたちの話しを多く聞くようにしたり、現地に直接出かけたりもしてきました。一人でイタイイタイ病の富山や新潟県の阿賀野などにも行きました。公害総行動は「被害に始まり　被害に終わる」ということを大事にすべきだと思うからです。水俣の時には、病院や島をめぐり、ほっとはうすや杉本栄子さんを知り、胎児性水俣病の皆さんに日比谷公会堂に来てもらって被害を語り、願いを込めて舞台いっぱいにハイヤ節の踊りをみんなで踊ってもらいました。その時は水俣特集として企画しましたが、水俣の闘いの歴史の上でも画期的なことだったろうと思います。

命をかけての取り組みの集会はいつも一分一秒無駄にできません。交渉や体調の悪い参加者のことも考え例年８時終了を目標に努力しています。日比谷公会堂に集まってわくわくする時間もほしいと思い、オープニングとして公害総行動に違和感のない１５分だけの楽しい出し物を企画することも工夫してきました。荒馬座のはしごのぼりや虎舞いや子どものミュージカル、歌に朗読と、いろいろと工夫をしてきました。今年の天狗と狐のからみも、とても評判がよかったです。狐の登場は公害団体の旗開きで清水瀞さんのお孫さんの可愛い狐の踊りを見て思いついた事でした。いつも登場して闘いに彩りを添えてくれていた高尾天狗は公害闘いの象徴です。狐に絡んでの天狗の登場で決起集会に違和感なく盛り込むことができました。奥田靖二さん演じる高尾の天狗さん、圏央道の高尾山トンネルは通ってしまいましたが、今後とも公害の闘いを見守って応援してください。原告の皆さんが舞台に上がって訴えることが、闘いへの大きな励みになることも知りました。大気汚染の闘いをテーマに舞台を構成することがしばらく続きましたが、原告の皆さんが全員舞台に上がったことがありました。その後「闘いの質が変わった、みんなが闘いの主人公になった」と言われました。そしてその後闘いは大きく力をつけ勝利の道を進んだのです。これをきっかけにここ数年はできるだけたくさんの団体と参加者に舞台に上がっていただくことに心砕いてきました。

闘いの力は大気から水俣に引き継がれ、イレッサを励まし、まさに公害総行動が支え合い励まし合う場面を実感する日比谷公会堂の舞台が見られてきたと思います。

39回も泉南や首都圏のアスベストの闘いや有明海の諫早開門への勝利への闘いへの期待、そして何といっても今世紀最大の公害である福島原発被害の解決への道が開かれるようにと願う力が会場一杯に満ち溢れていました。

総決起集会の企画はここ数年、プロジエクトチームがたちあがって企画するようになりましたが、闘いの現状と成果を把握する実行委員会やプロジエクトチームの役割、たくさんの団体と連絡を取り合って調整する池田佳子さんをはじめ公害センターの皆さんの役割があってスムーズに進行してきたと思います。日比谷公会堂の職員の皆さんの温かい協力もありがたいものです。これだけたくさんの団体と参加者の皆さんを主人公にする総決起集会を成功させるには、参加者の想いを受け止めスムーズにいくような演出も欠かせません。
限られた時間ですので命がけの闘いをわずかな時間で舞台にのせることはとても心苦しいものです。でも皆さんよく協力しあいおり会って一回一回が成功してきたと思います。

来年はいよいよ40周年です。裁判は終わっても公害は終ってはいません。それぞれの地域で様々な困難をかかえながら生きている皆さんの痛みに共感し励ましあう公害総行動総決起集会の存在は本当に貴重です。
30周年の時は公害総行動の第一回からの歴史を映像と重ねて朗読構成にしました。
ここらで公害総行動の闘いの原点を確認し合い、何のためにどう闘いを乗り越え、展開してゆくのかみんなで確認し合う40周年の集会となっていく時だと思います。

公害総行動決起集会での天狗と狐

天狗が見た全国公害被害者総行動

高尾山の天狗　奥田　靖二

公害総行動に参加した天狗さん

吾輩天狗も日比谷公園霞門に出向いて、昼休みデモに加わった。異常な暑さに汗だくとなったが、公害被害者の長年の苦痛を思えば屁でもない。デモ終了後、厚労省門前で「田村大臣　会うてんか行動」の大阪泉南アスベスト被害者の支援行動に参加した。そして吾輩は、夕刻からの大集会の開会パフォーマンスの舞台稽古にはせ参じ、かねてより稽古をしてきた狐たちに河童も加わって本番に備えた。

さてその舞台は

1300名が省庁交渉を終えて日比谷公会堂へ集まり本番となった。浅草の吉原狐たちとは、このほど100年余りの眠りから覚めて若者たちに取り付いて復活したという連中。葛飾北斎の版画にある装束を復刻してあでやかにめかしこんでやってきた。着物姿の女狐も笛を携え、舞台で最初からぽこぽこ太鼓をうって河童もひきつれて。

公害とやらにこんな化け物と驚きながらもそれではと、邪気を払う狐舞を天狗と共に舞った。吾輩も旧年の友の到来に大いに意を強くしたというわけだ

その舞台裏だが

このパフォーマンスを請け負う舞台監督は大門高子女史、われらを集めて今日の手筈は申すに及ばず、分秒刻みの采配ぶりはまさに舞台裏を走り回っての働きぶりだ。舞台の取り仕切りを予定通り時間ぴたりとおさめて、われらもホット一息。皆の衆を出囃子で送り出しながらこれは影の苦労だと思った。どんな取り組みもそれを準備し、あれこれの舞台裏の苦労はつきものということを心しておきたいものだ。舞台では次々に各地の闘いの報告があり、今更ながら公害と原発事故のとてつもない惨状に怒りを覚える吾輩だった。

邪気は祓われ、裁断は下るぞ

狐舞は邪気を祓い、福を招くというご利益がある。われら天狗一族も彼らとともにこれより先も悪しき心根の政人（まつりびと）や商人、権力の座にある者たちに怒りの鉄槌を打ち下ろし、そのもとに苦しめられている者たちの苦役を減じて厄災を祓って力になりたいと思う。浅川金刀比羅の神にも力を借りて、皆々楽しく安全に働き過ごせる日々をと思う。　それにつけてもいくつも公害を作り出して何の恥もなく、自らの利益のみを求めて餓鬼道を歩む者たちに自然の大神たちも怒り召されて、裁断を下されんこと願い出ようと思う。

来年は節目の年

来年は公害総行動の40年の節目の年とか。いっそう皆々力をだし、加わるものを増やして今年に倍する闘いを準備怠ることなくと願う。とりわけ、最大、最悪の公害たる原発被害の拡大はわれらも到底許しがたい大罪としてこれより先も被災地復興は申すに及ばず被害者救済への東電と国の責任を追及するは活動の大きな要と思う。吾輩も神通力をばさらに増す修行に励み皆の衆の力となりたいと思う。

被害の苦痛の中にある人たちは、体を大切に、治療も尽くしてこの行動に参加の体力を保っていただきたい。大神とともに月の祭りのごとに健康祈願と厄災祓いの祈願も致して、来年も再会したいと思う。

全国各地の公害被害者の救済と公害根絶を求める活動がより盛んとなり福井地裁判決のごとき成果もあげて、また集まりて舞い踊ることを楽しみとしたいものだ。天狗より心からのメッセージを送る。

地元の雇用を増やした
中小企業の市民太陽光発電所の見学記

日本科学者会議武蔵野通研分会 石綿　勇

茨城県の地元業者が手がけている50kWクラスの小規模太陽光発電所を見学する機会があった。見学会参加のきっかけは、昨年12月に中央大学で行われた科学者会議東京支部主催の東京科学シンポジウムの第10分科会「原発即時ゼロと気候変化抑止の両立を展望する」で小規模太陽光発電の事例を発表していただいた合同会社「自然素材・木の家」代表の平戸治夫氏が手がけておられる太陽光発電のサイトの一つの発表を聞いて、機会があれば現場を見てみたいと思っていた。

上記分科会設置責任者であった佐川さんから案内があり二つ返事で参加を表明した。主催はインカレサークル「私たちの環境サミット」で、5月3日に開催された。

[太陽光発電の設備]

現地は、つくばエキスプレスの万博記念公園駅から徒歩で10分足らずの場所にあった。フェンスに「つくば市島名おひさま発電所」と掲げられ、「地域の自然エネルギーを有効活用。地元業者が施工。成果は地域に還元。」とあるではないか。業者の心意気が伝わってくる。なお、島名とは地名である。平戸社長さんの他、4名の従業員の方々が休日返上で出迎えてくれ、ペットボトルのお茶も用意してくれた。

太陽光パネルは中国のTrina Solar社製（江蘇省常州市）の250W出力タイプで合計216枚（パネル出力は54kW）である。平戸氏はこれを採用するに当たって、中国の現地工場に行って確認し、信頼できると判断したのだ。その後も9回輸入しているが納期、価格、全てきちんと守られ信頼がおけるという。セルの良否チェックはドイツ製の機械で全数行っていることも確かめている。このメーカーは今や世界第2位の売り上げ実績になっているという（付録参照）。パワーコンディショナはOMRON製（KP55M-J4）で、パネルも架台も中国製なのでパワーコンディショナも中国製かと想像していたが違った。パワコンのカバーを開けて中を見せてくれるとは驚きであった。これは定格出力5.5kWで4個のブレーカーがあったが3ストリングを収容してあった。1ストリングはパネル8枚で、パワコン1台で24枚のパネルを収容し、全体でパワコン9台を使い216枚のパネルで合計49.5kWの出力容量である。このパワコンは使い易いという説明であった。なぜだろうか気になったので、後日メーカーのカタログを見たら、①接続箱機能内蔵で接続箱の設置が不要②表示部・操作スイッチも本体に搭載し外付けが不要③屋外での施工性に配慮④自然空冷方式のため、29dBと静音④外部ファンレスで定期メンテナンスフリー、とあった。ちなみに電力変換効率は94.5%である。

[グランドスクリューの実演も]

続いて、パネル架台を固定するグランドスクリュー施工の実演も行われた。グランドスクリューは設置場所の土壌の状態によって写真のようにいくつかの種類がある。一番左の螺旋の幅が極端に広いのは水田用だ。最近は農地でも農林水産省は一定の条件で太陽光発電への転用を認めるよう緩和された。これは農地改革とも言うべき画期的なことで革命的だと強調していた。施工は、写真のようにドリルの上部を2人で持ち、右横の棒をもう1人が支えていた。このドリルは中国製だ。超低速回転で大きなトルクを発生している。平戸さんは施工になくてはならないこの道具が国産品でないか調べたが無かったという。そこで、インターネットを駆使し調べたところ中国製が見つかり購入したものだ。大手企業のメガソーラー建設で用いられるような大がかりで高価な重機を使用しなくても手軽に施工できる。こうしたところが施工のノウハウである。打ち込みの時間は2分ほどであった。50kW級では架台の設置に2日、モジュール設置に2日ほどだという。

グランドスクリューの実演

架台はアルミ製であった。東京科学シンポの発表では、国産檜(ひのき)材を使っていることを強調し、印象に強く残っていた。
現在はアルミが主で、希望があれば檜材で施工するという。

［東電との連系］

東電との連系は低圧の連系である。パネルの合計出力は54kWであるが、パワコンの容量が49.5kWと50kW以下である。経済産業省の認定はパネルとパワコンのどちらか低い方で認定になるので50kW以下の低圧連系となる。
50kW以下の場合、キュービクル設置も不要で電気主任技術者は必要ではない。そのため小規模事業者には有利である。

［盗難、ヒョウなど］

盗難はかつてあったが、パネル1枚ごとにナンバーを控えてあるので足がつく。買い手がいないので最近盗難は発生していない。
ヒョウなどで割れることもあるが保険に入っている。

［雑草対策はヤギ］

看板に「雑草対策　ヤギ２匹」とあった。このヤギは姉妹で実験動物の施設から購入したばかりでまだ小さい。メスの方が値段は高かったが、大人になったらミルクを飲めるからいいのだという。雑草対策に羊を用いる事例は昨年10月頃、兵庫県のメガソーラーで話題になったが、こちらはヤギだ。近日、タウン誌に紹介されるとのこと。

雑草対策係のヤギの姉妹

［オーナーは牛乳店のご主人］

途中でオーナーも来てくれ、奥さんが差し入れの牛乳を持ってきてくれた。「この土地は石ころが多く、耕作にもすぐには出来ない」「アパートを作ろうかと考えていたが、需要が見込めないので物置のようにしていた」「そこで平戸さんに相談を持ちかけた」という。いまは大助かりだと笑顔で話してくれた。

［地域の交流センターでのレクチャーと交流］

見学者と説明に立ち会ってくれた社員の方々と全員で近くの島名交流センターでレクチャーと交流を行った。

平戸さんからは会社の売り上げ実績や発電実績のデータが示された。会社の売り上げが昨年より4倍になり、来年も2倍は見込めるという。発電実績はシミュレーションよりも124％も多かった。パネルを全くクリーニングしていないでシミュレーションを上回り予定以上の収入になった。発電実績がシミュレーションより上回った要因について議論になった。これについては、①他の業者のサイトでもシミュレーションを実績が上回っている②天候が良かったこと。この他③シミュレーションの結果より実績が少ないとクレームが出ることを畏れシミュレーション値が安全サイドで見積もられているのではないか、とのことである。

［地域の交流センターでのレクチャーと交流］

見学者と説明に立ち会ってくれた社員の方々と全員で近くの島名交流センターでレクチャーと交流を行った。

平戸さんからは会社の売り上げ実績や発電実績のデータが示された。会社の売り上げが昨年より4倍になり、来年も2倍は見込めるという。発電実績はシミュレーションよりも124％も多かった。パネルを全くクリーニングしていないでシミュレーションを上回り予定以上の収入になった。発電実績がシミュレーションより上回った要因について議論になった。これについては、①他の業者のサイトでもシミュレーションを実績が上回っている②天候が良かったこと。この他③シミュレーションの結果より実績が少ないとクレームが出ることを畏れシミュレーション値が安全サイドで見積もられているのではないか、とのことである。

［同業者への展開も］

平戸さんの会社は元々は自然素材を売りにした住宅建設の会社だ。同業者で太陽光発電も手がける会社はない。その理由は経験がないからだ。そこで平戸さんは27社の棟梁会で共同出資して発電所を建設して、そこで太陽光発電所建設のノウハウを学ぶ計画を提案したところ賛同が得られたという。なんとも嬉しい展開だ。

［平戸さんの頑張りに社員一丸に］

社員の方への質疑の中でベテラン社員が、「朝出勤すると、社長が居ることがたびたびあった。寝不足で倒れなきゃいいがと思うこともある」「社長が頑張っているから自分たちも頑張る」と発言があった。これだけの幅広い活動をされているから寝る間も惜しんで相当頑張っているのではと想像していたが、やはりそうだった。交流会終了後にこのことを話題にしたら、「太陽光発電を付けるのが好きなんですよ」との言葉が返ってきた。

飄々としておられるが、原発をゼロにするため、未経験のことでも臆せず挑戦し開拓していくエネルギーと情熱は並大抵ではない。このみなもとは何か知りたくなった。

この他、佐川さんと産総研の歌川さんのレクチャー、さらには、昨年末のCOP19に参加した学生の報告があった。

［付録：世界の太陽光発電モジュールのシェア］

「Trina Solar社は今や世界第2位の売り上げ実績になっている」との発言は驚きであった。そこで、世界の太陽光発電モジュールのシェア動向を最近チェックしていなかったこともあり、インターネットで調べた。2012年の世界市場での太陽電池モジュールメーカー上位各社の供給量およびシェアは次表の通りであった。2000年代前半までは日本のメーカーが上位を占め、その後ドイツのメーカーにとって代わられたが、今や様変わりである。Trina Solar社は安さを売りに急速に成長しているので、現在は2位になっているのかもしれない。

太陽電池モジュール供給量シェア

順位	国	メーカー名	供給量	シェア
1位	中国	英利(Yingli)	2,300MW	7.10%
2位	アメリカ合衆国	First Solar	1,800MW	5.50%
3位	中国	Trina Solar	1,600MW	4.90%
4位	中国	Canadian Solar	1,550MW	4.80%
5位	中国	Suntech	1,500MW	4.60%
6位	日本	シャープ	1,050MW	3.20%
7位	中国	Jinko Solar	900MW	2.80%
8位	アメリカ合衆国	SunPower	850MW	2.60%
9位	スウェーデン	REC Group	750MW	2.30%
10位	韓国	ハンファグループ	750MW	2.30%

（注）Canadian Solar：本社はカナダのオンタリオ州にあるが、生産拠点は中国に置かれている。Suntech：かつては世界をリードする太陽光発電メーカーであったが、2013年3月に破産。米IHSレポート・2012年太陽電池モジュール供給量TOP10（訳）世界ランキングにおける中国ソーラーパネルメーカー。

ストリング：太陽電池の構成単位で、複数の太陽電池モジュール（ソーラーパネル）を直列で配線し、まとまった電力量を得られるようにしたもの。

太陽光発電所見学の様子
隔離距離は最大高の2.5倍にしている。
これで冬至でも日陰にならない。

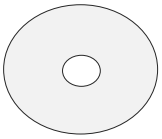
DVD

「地球の温暖化をとめて２　未来につなげ！」制作開始 !!

公害・地球懇常任幹事　橋本良仁

急速に進行する地球の温暖化に対し、日本政府に先進国の役割を果たす温室効果ガス削減目標を掲げさせることが求められています。そのため、国民的運動をさらに盛り上げ日本政府を包囲しなければなりません。
2009年12月、公害・地球懇は多くの団体と協力して、デンマークのコペンハーゲンで開催されたCOP15に20名をこえる代表団を派遣しました。この派遣は、その後の温暖化の防止と脱原発・再生可能エネルギー普及させる運動の前進につながりました。
COP15開催の一年前に作成したのが18分DVDの「地球の温暖化を止めて」でした。映画演劇労働組合連合会の協力によるDVDは、新婦人や全労連を中心に2000枚を普及することができました。多くの市民団体の勉強会や大学の授業などにも活用され、賛否両論でしたが印象的な野太いナレーションで内容はとても分かりやすいと評価されました。
いま、安倍政権下で原発の再稼働や輸出、石炭火発の大増設が企まれ、福島原発事故を理由に世界に公約した京都議定書削減目標を破棄しました。
公害・地球懇は、多くの民主団体と協力して、脱原発・再生可能エネルギーの急速な拡大を進めます。その活動を進めるため、「地球の温暖化を止めてシリーズ Part2」のDVDを映演労連の協力で制作します。完成予定は2014年末です。皆さんの物心両面のご協力をお願いします。

ＤＶＤの構成案は以下の通りです。
第１章【原発ゼロで温暖化防止を】
第２章【限度は２℃、待ったなし】
第３章【日本政府の罪】
第４章【未来を取り戻す対策】



JNEP情報（2014年8月）

大気汚染防止・温暖化対策に逆行する石炭火発建設・入札あいつぐ

九州電力川内原発の「基準適合」問題に加え、電力会社では石炭火力発電所の建設計画と石炭も想定した電力入札計画が目白押しである。

東京電力は2019年4月～2024年3月に供給開始の火力電源（想定価格が安く、石炭想定の可能性）600万kW入札を計画している。この応札電源として環境影響評価手続きで判明しているだけで2点の計画がある。１つは鹿島パワー鹿島火力発電所２号機建設（65万kW石炭火発、新日鉄住金鹿島製鉄所内。茨城県鹿嶋市）、もうひとつは常陸那珂ジェネレーション常陸那珂共同火力発電所１号機建設（65万kW石炭火発、東京電力常陸那珂火力発電所内。茨城県那珂郡東海村）が計画されている。

東北電力は自社応札前提の入札を準備、このうち能代3号（石炭）を想定し、2020年6月～2022年6月に供給開始予定の電源60万kW を計画。3月に経済産業大臣に提出した同社供給計画では能代3号（石炭）が2020年運転開始として計画されている。

中部電力は、2021年4月から2023年3月までに供給を開始する電源100万kWを入札予定である。
関西電力は2021年4月～2023年7月、150万kWの火力電源入札を予定している。

九州電力は自社応札前提の入札を準備、2021年６月までに供給開始する電源100万kWを入札予定である。3月に経済産業大臣に提出した同社供給計画では松浦2号（石炭）100万kWが2021年6月運転開始として計画されている。電源開発は高砂石炭火力50万kWを更新し120万kWにする計画である。また、竹原石炭火力に新１号機60万kWを建設(1,2号置換)、2020年9月運転開始予定である。

神鋼神戸発電は2021～2年度に最大140万kWの石炭火力発電所増設を計画している。

さらに、東京電力は同社広野火力発電所構内（福島県双葉郡広野町）に「福島復興大型石炭ガス化複合発電設備実証計画（広野）」として石炭火発50万kW級、東京電力と常磐共同火力が共同で、常磐共同火力勿来発電所（福島県いわき市）隣接地に「同実証計画（勿来）」として石炭火発50万kW級をいずれも2020年代初頭に運転開始の計画である。

1010万kWの入札予定と石炭火発210万kW増強（福島県の実証計画、自社応札予定の東北九州の石炭火発除く）があり、これらが70%稼働すると4400万トンのCO2排出が増加（入札分は電力量あたりCO2を0.55kg/kWhと指定）、これは日本の排出の3.4%で、大阪府や埼玉県分のCO2排出、あるいは家庭約4000万世帯の燃料分全体排出全体の排出がまるまる増え、温暖化対策に逆行する。また、立地地域は大気汚染物質や重金属などで住民に健康被害が懸念される。

公害・地球懇　活動日誌

2014年7月

7月2日（水）◇「原発と人権」ネットワーク
　　◇JNEP第2回常任幹事会
3日（木）◇DVD制作打合せ（映演労連）
4日（金）◇第39回公害総行動継続交渉の折衝（四省庁訪問）
7日（月）◇ＰＭ2.5シンポジウム講師（伊瀬）打合せ
9日（水）◇ＪＮＥＰ政策委員会・温暖化対策推進委員会合同会議
10日（木）◇風の会運営委員会
　　◇防災名目道路問題東京都交渉
11日（金）◇福島原発被害千葉訴訟
14日（月）◇泉南アスベスト「東京相談会」
15日（火）◇福島原発被害生業訴訟
16日（水）◇福島原発訴訟かながわ訴訟
18日（木）◇「全国フォーラム2015in静岡」事務局団体会議
19日（土）◇ＪＮＥＰ2014年度第1回幹事会
　　◇日本環境会議東京大会シンポジウム
22日（火）◇フクシマ現地調査「相談会」
23日（水）◇福島原発被害いわき訴訟
24日（木）◇「全国フォーラム2015in静岡」要請オルグ
　　◇公害総行動実行委員会「40回総行動PT会議」
25日（金）◇PM2.5シンポジウム実行委員会
26日（土）◇東京公害患者会足立支部「つどい」（金井直子さん講演）
27日（日）◇ノーモアミナマタ第二次訴訟東京原告団結成
28日（月）～29日（火）◇東京公害患者会・三多摩土建支部要請オルグ
31日（木）◇7.31規制庁抗議・三省庁申入行動

発　行　：公害・地球環境問題懇談会　（公害・地球懇／JNEP）
連絡先　：〒160-0022 東京都新宿区2-1-3　サニーシティ新宿御苑10F
　　TEL 03-3352-4938　　FAX 03-3352-9476
郵便振替　：00140-1-80892　加入者　公害・地球環境問題懇談会
URL　：http://www.jnep.jp/